

## 式 辞

平成三十年代畿央大学入学式において、ただいま畿央大学健康科学部ならびに教育学部への入学を許可された皆さん、誠におめでとうございます。

ご来賓の皆様のご臨席を賜り、学部長、学科長、事務局長をはじめとする教職員一同とともに、入学式を挙行し、皆さんの入学をお祝いできることは、畿央大学としても大きな喜びとするところであります。

さらに、この日を迎えるにあたり、これまで長きにわたり入学生の皆さんを見守り、励まし支援されてこられたご家族および関係者の皆様方にもお慶びとお祝いを申し上げます。

畿央大学は、ここに学ぶ学生の一人ひとりが将来のありたい姿、夢の実現に向けて、大きく成長できる、素晴らしい教育の場です。この教育の場は、畿央大学の構成員である、学生、教職員、そして既に社会で活躍されている卒業生が一体となって作り上げてきたものです。

今日からは新入生である皆さんもその中に加わり、お一人おひとりが人生の夢の実現に向かって、自ら道筋をつける努力をされ、人格的に大きく成長されることを期待しています。

畿央大学では、冬木学園の創設者である冬木智子名誉学園長が五十四年前に掲げた教育への理想を、建学の精神としています。

本学園の建学の精神、それは「徳をのばす」ということを、まず、第一に挙げています。徳とは、人の寂しき、悲しきを察する心をもって、優しさを世界中に広めていこうという心のありようです。今日、入学された皆さんは、各自が持つておられる「徳」をのばすことをもって、心に秘めたやさしさを世界中に広め、人に幸せを与えられる人になっていただきたいと思ひます。

次は「知をみがく」ということです。これは、人間の進歩向上は、自己の才能を最大限練磨することであり、私達はあくことなく頭脳を磨き、励まし合い、研究的な態度を養おうという、あくなき知的探究の「学びの姿勢」を示す言葉です。ここにおられる皆さんが、物事に対し「なぜか」という疑問を持ち続け、分かるまで探究を続けるということを実践していただき、専門知識を深く、広く学んでいただきたいと願う次第です。

そして「美をつくる」ということです。美とは私どもが何かを作ろうとしている活動のゴールにあるものへの最高の評価ではないか、憧れの対象となるものではないか、と思ひます。芸術作品はもとより、工業製品から、数学の定理や自然科学の法則、魅力ある心や生きる姿など、具象的なものから抽象的なものまで、そのありようが、すべては美に結びつきます。美は人に感動を与えます。そのような美を創り出せることは大きな喜びであります。「美」をつくることに加わり、美への憧れを秘めた一人になっていただきたいと思ひます。

新入生の皆さんは、「徳をのばす」「知をみがく」「美をつくる」の言葉に示された建学の精神をこころに深く刻み、これからの大学生活において、健康科学、教育の分野における専門的知識と確かな技術を学び、幅広い教養を身につけてください。

大学での学びについて皆さんに期待することがあります。

一つ目は、知識や技術を「学ぶ」姿勢についてです。重要なのは、自ら積極的、能動的に学ぶ姿勢です。畿央大学は、学生同士が切磋琢磨し、相互に刺激を与えながら成長でき

る場にあります。このなかで、学生の皆さんが、将来のあり方・生き方について高い志をもち、そのありたい姿の実現に向かって学び続けていただきたいと思います。

学び続けることの原動力は、「分かること」の楽しさを経験することであると考えます。「できる」というだけでなく、「分かる」という段階に到達するために、「なぜか」という疑問を何事に対しても持ち、常に考え追求する姿勢を持ち続けてください。「なぜか」と問う知的好奇心を大切にし、分かるまで考え続けることができれば、分かることの楽しさを経験でき、同時に深く理解することができます。

二つ目は、知識・技術を体系として捉える視点を持っていただきたいと思います。とくに専門分野の知識は、個々の事象や部分に関することをまず理解することが必要です。さらに、個々の知識が互いにどのように関係しているのかを知ることも必要です。それらがどのように関係しているかが分かると、その分野の専門知識を体系的に理解することができます。体系的に把握できるようになると、足りない部分やさらに追加していく先が見えてきます。他の人には、理解していることを説明できるようになります。

知識や技術の個々の要素は、それを現場でどのように使うのか、問題の解決にどのように適用するのか、ということに結び付けると、より実践的な知識、確かな技術となります。

これから大学で学ぶ専門知識や技術を単なる寄せ集めではなく、相互に関連する知識・技術の体系としてとらえる視点を常に意識していただきたいと思います。

三つ目は、知識や技術を大切にし、生涯にわたり成長させることを入学当初から意識して欲しいということです。

現在日本の社会は、急速に変わりつつあります。世界規模での政治と経済も同様です。情報通信技術の発展も急激であり、それが社会の変化を加速させています。

知識や技術の学び方も、大きく変わりつつあります。授業で出てくる専門用語の調べやレポート作成の際には、インターネットで検索をして情報を収集するのが当たり前になっています。作業の手順なども検索できます。授業資料なども、シーズと呼んでいる授業支援システムに掲載されているものを使います。

このような皆さんが学ぶために用いた情報は、皆さんが卒業して社会で活躍しだすころに、同じように検索して見つけることができるでしょうか。恐らくそうではないでしょう。

これから皆さんが学ぶ専門知識と技術に関して、デジタル化されている資料や学習記録は整理して順次保存し、大切な個人の知的財産として蓄積することを心がけてください。皆さん全員に大学から最新のノート PC を貸与しました。どのように情報を整理し保存していくかは情報処理演習の中で指導いたしますので、在学期間中はその中に個人の学習記録も含め、専門知識・技術のデジタル資料を系統的に保存し学習に活用して下さい。

卒業時には、その個人の知的財産を持って卒業し、社会の中でさらに新しい情報を追加しながら、成長する個人の知的財産として生涯にわたり活用されることを想定しています。

さらに、一つ目に挙げた学ぶ姿勢は、大学の中での学習や研究の時だけでなく、大学生活のすべての局面において持ち続けていただきたいと思います。

現場での実習や地域連携の活動の中で、色々と学ぶことがあります。学外実習、地域連携の取組み、国際交流などにも積極的に参加してください。学生の仲間や先生、職員との

つながりを深めるとともに、学外の人と交流する中でも多くのことが学べます。感動や喜びの経験は学習への大きな動機となります。このような学びを積み重ねることにより、豊かな人間性が育まれ、建学の精神に言うところの「徳をのばす」ことが育まれると考えます。

畿央大学におけるこのような学びをとおり、入学された皆さんが人生の夢の実現に向かって人間として大きく成長されることを期待いたします。

皆さんの成長は、お一人おひとりの絶えざる努力・研鑽からもたらされるものであるとともに、仲間である学生と教員、職員の一体的な協力、さらに教育研究面での社会への貢献など、畿央大学総体としての活動の中で達成されるものです。

畿央大学は、皆さんの参加を得て、教育研究活動をさらに充実発展させ、教育研究の質と、社会への貢献において、日本の中で高く評価される大学の一つになることを、学生、教職員とともに目指したいと思っております。

今日この入学式を映像を通してご覧いただいている保護者の皆様方におかれましては、本日、ご子息・ご息女の晴れの姿をご覧になる喜びは如何ばかりかと存じます。ご子息・ご息女が大学生活の中で自立していかれる様子を温かく見守って頂き、また畿央大学に対してもご支援、ご協力をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、たいへんご多忙の中をご出席いただいております、広陵町長様、香芝市長様をはじめ、ご来賓の皆様方に厚く御礼申し上げます。今後とも畿央大学での教育にご理解をいただき、引き続きご支援をいただきますようお願い申し上げます。

以上をもちまして本日の式辞とさせていただきます。

平成三十年四月三日

畿央大学 学長 冬木正彦